



明日の青梅のために!!

島崎 実 後援会報 No.1

平成27年7月15日発行
島崎 実後援会事務所
〒198-0063
青梅市梅郷6-1511
TEL 0428-76-0358
E-Mail info@minoru-kai.com

■皆様のご支援のお陰をもちまして、2,897票で、トップ当選いたしました。
◎平成27年 青梅市議会議員選挙期間中の写真です。(移動事務所にて)



島崎 実 選挙カー



4/20日向和田 蓬莱屋様駐車場にて



4/21下郷小川様駐車場にて



4/22和田町自治会館にて



4/23畑中公会堂にて



4/24柚木町2丁目自治会館にて



4/25本部事務所にて



4/25本部事務所にて



4/25本部事務所にて



4/25本部事務所にて



4/26本部事務所にて(当選)



4/26 トップ当選

島崎 実の5つの目標

- ① 梅の香薫る吉野梅郷再生のために・・・
- ② 教育の充実、小中学生の学力アップのために・・・
- ③ 安心・安全で快適に暮らせるまちのために・・・
- ④ みんなが健康で生きがいに満ちたまちのために・・・
- ⑤ 地域経済の活性化で活力ある青梅市のために・・・

※目標の詳細内容については、ホームページを閲覧してください。 <http://www.minoru-kai.com/>

「議 会 報 告」 No.1

- 1 5月19日の召集議会で、総務企画委員会の副委員長に選出されました。
- 2 同議会に上程された、ウメ輪紋ウイルス対策の補正予算に対する賛成討論を本会議場で行いました。
- 3 6月議会の一般で質問で(1)ウメ輪紋ウイルス対策と梅の里再生計画について (2)小中学校児童生徒の学力アップについて、市長・教育長に質問しました。概要はホームページに掲載しました。下記はその抜粋です。

(ウメ輪紋ウイルス対策と梅の里再生計画について)

青梅の梅はウメ輪紋ウイルスの影響により壊滅的な状況にあります。梅の衰退は観光のみならず青梅のあらゆる産業に大きな打撃を与えています。このような中、今回新たな強化策が示され、平成28年度からの梅再植樹の可能性が出て来たことで地元では喜びと安堵の声が聞かれます。

質 問	市長答弁
① 強化策は市を挙げての対応と考えてよいか？	① 市が主体的に調査・消毒等についておこなっている。既に延べ245人の市職員を動員しており、市を挙げて対応している。
② 農薬散布については、丁寧な安全性の説明を願いたい。飛散防止も丁寧に。作業班には地元の人を加えて欲しい。	② 地区内4千軒に消毒のチラシを配布、広報及び学校に周知した。薬剤は国の登録を受け、国・都・市の三者で協議して決定した。飛散防止に十分留意する。今後とも地元の人々の同行を頂き実施す。
③ 梅祭りに替わる「吉野梅郷花祭り」を実施したが、今後は再生に軸足を移した「梅の里再生祭り」としたらどうか？	③ 早期に梅の里再生計画推進委員会や関係団体と協議する。名称として提案の「梅の里再生祭り」も良い名と考える。
④ 梅の里再生に向けての予算等について伺う。梅の公園の完了までの予算の積算は出来ているのか？国・都からも助成を受けると思うがどのように額を調達するか？	④ 梅の公園再生完了までの予算につき、苗木・成木の植栽場所、本数、斜面への植栽等も考慮し早急に積算する。費用の補助制度は現状無いが、国・都にも働きかけて行く。
⑤ 梅の里再生基金について伺う。 募金の現在高は？あらゆる機会を捉えて募金活動を行う事が必要と考える。ふるさと納税についてはPR不足ではないか？ふるさと納税で当市に入った額？そのうち梅の里再生の額は？	⑤ 梅の里再生基金についてお答えする。 基金の残高は26年度末、5570万円。ふるさと納税の資金6件1213万円は基金に積立している。再生に向け、ふるさと納税は大変重要、これまでに以上にPRに努める
⑥ ふるさと納税の返礼品について積極的な検討を願いたい。単に物だけでなく、利用券等各種サービスも対象とし、青梅に人を呼び込む手段として検討して頂きたい。市長の見解は？	⑥ 返礼品の選定について、市の特産品を検討中。さらに、市内宿泊施設の割引券等、青梅に足を運んでいただく返礼品を用意することで、観光収入に結びつく効果も期待できる。相乗効果が図れるよう、取り組みを進める。

(小中学校児童・生徒の学力アップについて)

当時の教育長から5年後には東京都平均を上回るまでにすると回答を得た。学力向上は一朝一夕に出来るものではなく、粘り強い努力と多くの課題解決が必要であるが、特に家庭教育の充実と家庭・学校・地域の連携が重要と考え質問する。

質 問	教育長答弁
① 5年間で東京都水準を上回るとの目標について そのビジョンを示していただきたい。	① 教育委員会は「学力向上5ヵ年計画」を策定した。内容は家庭学習の定着及び充実に向けた啓発資料の作成、習熟度クラス及び少人数クラスの導入等7項目に及ぶ。
② その上で、家庭教育の充実というテーマの具体的取り組みについて、伺う。	② 小学校の1例として家庭学習の目標時間を「15分×学年の数」として、毎日宿題として取り組み、5月当初は52.5%の達成率が10月には78.6%に伸びた。この取り組みを他校にも周知した。
③ 就寝前に10分間だけ、読み聞かせをしましょう。そんな啓蒙活動、PRしたらどうか？見解を伺いたい。	③ ふれあいの時間は減少の傾向。親子読書への取り組み・地域のイベントを通してのふれあい等、全校へ発信し啓発していく。
④ 学力レベルの高い県、具体的には秋田・北陸3県等の家庭の有りに参考となる点はないか？そこに研修に行ったら、どうか？見解を伺う。	④ 大分県豊後高田を視察。同市は土曜補習を全国に先がけて実施しトップレベルまで押し上げた。当市のサタデースクールの参考例。家庭学習・家庭教育の充実の観点から先進市視察を検討する。
⑤ 学校行事に多くの地元の人が参加する事が重要。中でも授業参観が重要で、私は公開授業を見に行こう呼びかけている。公開授業の参観者はどの位いるか？親以外の地域の参観者は？参観者を増やす方法は何かあるのか？	⑤ 年間を通じて計画的に学校公開を行っている。26年度全校で実施した道徳授業地区公開講座では、地域からは小学校149人、同中学校74人。参観者を増やす方法について、公開日程の継続周知の他、自治会・PTAの協力を呼びかける。